

■■メールマガジン「静岡県防災」第9号■■

「『土砂災害から命を守ろう！』

～ 熱海市伊豆山地区土砂災害の教訓と経験から（前編）」

2021年7月3日に発生した、熱海市伊豆山地区土砂災害からまもなく1年を迎えようとしています。

改めて、お亡くなりになった方々に対し哀悼の意を表しますとともに、行方が分からない方の一日も早い発見を心からお祈り申し上げます。

さて、梅雨の後半は大雨災害の発生が懸念されます。伊豆山土砂災害の教訓や経験を踏まえ、災害への備えを「自分ごと」として認識し、確実に実践する必要があります。

そこで、土砂災害から命を守る行動について連載します。

今回は「地域の危険性を知る」がテーマです。

○住んでいる地域で土砂災害は起きるのか？

日本では、直近10年間（平成24年～令和3年）において、14,500件の土砂災害が発生しており、その前の10年間（平成14年～平成23年）の11,500件の1.26倍に増加しています。

土砂災害に備え、日ごろから、住んでいる地域の危険性を認識しておく必要があります。

自宅の立地条件により、「立退き避難」か「自宅待避（垂直避難）」か、とるべき避難行動が異なります。

土砂災害のおそれがある地域は「土砂災害警戒区域」や「土砂災害危険箇所」に指定されています。

自宅がこれらの区域や場所に立地しているかどうか、市町が発行しているハザードマップ、あるいは、静岡県防災アプリ、県や国土交通省のホームページ等で確認しましょう。

なお、「土砂災害警戒区域」に指定されていない場合でも、傾斜地等では土砂災害が発生する可能性があります。

自宅付近に崖地や沢・溪流等があれば注意が必要です。

次回は、「避難行動のタイミングを決める」がテーマです。

【参考】

<https://www.gov-online.go.jp/useful/article/201106/2.html>